

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイリティ試聴会報告(2017.3.11)

フューレンコーディネート主催の PIEGA スピーカー「Master Line Source 2」の試聴会に行ってきました。

日時：3月11日（土）PM1:15～PM3:00

会場：3F ハイファイリティ試聴室

講師：オーディオ評論家 和田博巳氏

<使用予定機材>



ピエガ スピーカーシステム Master Line Source 2 ¥10,800,000 (ペア)



オクターブ プリアンプ HP-700 ¥1,836,000



オクターブ モノラルパワーアンプ MRE-220 ¥2,916,000 (ペア)



リン ネットワークプレーヤー KLIMAX-DS3 ¥2,700,000



当日のセッティング

<試聴の経過>

始めにピエガのスピーカーシステム [Master Line Source 2](#) の紹介があり、試聴に入りましたが、音源はすべてQNAPのNASからのハイレゾ音源の再生でした。Master Line Source 2 の特徴は上記サイトに説明がありますが、同軸のリボンツイーターと後面放射に音響レンズがあつて、サウンドステージ感を求めたものということです。

最初に、クナッパブッシュのワグナーがかかりましたが、サウンドステージ感どころか、録音の古さが目立つような音で、やはりアナログで聴くべき音源という印象でした。次にジャズボーカルと *Waltz for Debby* がかかりましたが、これらも録音の古さが目立つような音でした。

ここで再びクラシックに戻り、ショスタコービッチの5番と幻想がかかりましたが、オクターブのアンプのパワーハンドリングの良さは分かるものの、弦や木管の質感は今一つでした。

また、ヒラリー・ハーンとジャニーヌ・ヤンセンのバイオリン協奏曲も弦の質感は満足できませんでした。ヒラリー・ハーンは音量の設定がコンサートホールで聴く音量を超えており、音のきつさが気になりました。

この後、女性ボーカルが三つとロック、およびブルーグラスのグループの曲がかかりましたが、こういう曲は普段聴いていないので、再生のパフォーマンスを云々できる立

場にはありませんが、このような部屋いっぱいに広がるような再生を好むマニアもいるのではないかという感じはしました。

価格が1000万円にも及ぶハイエンドスピーカーということで期待が大きかったのですが、期待したレベルに及びませんでした。恐らくこのスピーカーの本来のポテンシャルを活かせなかったのは、オクターブのアンプと KLIMAX-DS3 と QNAP の NAS との組み合わせの問題と思われます。オクターブのアンプの球は KT120 ですので、KT88 のビンテージ管のアンプだったらどうであろうか、別のネットワークプレーヤーや NAS であったらどうであろうか、LAN ケーブルを替えてみたらどうであろうか、PCM 音源ではなく、DSD 音源やアナログであったらどうであろうかということを考えながら聴いていました。